

一般質問

茨 智仁 議員
新政会



警察・教育委員会・学校との連携体制など不審者対策について

児童生徒の安心・安全について、警察・教育委員会・学校との連携体制などの不審者対策は。

A 本市では三者の連携のもと不審者についての情報を共有し、必要な場合は保護者にも周知するなどの対応をしていましたが、文部科学省で「登下校防犯プラン」が取りまとめられたことに伴い、見直しを図り、警察と各小学校との間で連絡担当者を決め、通学路に重大な危険が及ぶ恐れのある事案が発生し、緊急の措置を必要とする場合、授業日はもとより夜間及び休日等にも情報が直接提供されることになりました。また、同時に教育委員会にも連絡が入る仕組みとなっています。

これまで登下校の安全確保として、保護者や地域住民、各種団体等のボランティアの協力・連携を得ており、「地域とともにある学校づくり」の一環として「地域ぐるみで子どもを見守り、不審者を近づけない」という目標を共にし、子どもたちが安心・安全な学校生活が送れるよう支援していくことを考えています。

(教育長)

質問の主な項目

・消防団員の確保策について

認知症を正しく理解するための本市の取り組みについて

Q 認知症の方が住み慣れたまちで生活していく上で、「地域」の方が正しく認知症を理解し、支援するための本市の取り組みは。

A 地域の方が認知症について正しく理解し、適切に接することが出来るよう「認知症サポート養成講座」の開催や、専門職に相談したり、情報交換の場として利用できる「さかいでオレンジかふえ」を市内7箇所に開設しています。また、高齢者を見守り、支援する相談員「坂出ほつとふれんす」が定期的に訪問し相談に応じるなど見守り支援活動も行っています。

このようなさまざまな取り組みを行うことで、認知症の方やその家族を地域で支える仕組みをさらに広めていきたいと考えています。また、認知症に関するさまざまな情報を取りまとめたパンフレット「さかいで認知症ほつとナビ」を作成し、有効活用するなど、広く市民の皆さんに認知症について理解していただくために取り組んでいます。(健康福祉部長)

植原 泰 議員
市民と共に



新たなコミュニティー交通の研究を

Q 他市では、公共交通空白地域を補うため、住民が主体となり、バスを無償で運行している。本市も研究すべきでは。

A 愛知県瀬戸市の菱野団地では、地域主導型住民バスとして、団地内の無償運行を開始しています。自主運行は、地域住民が運行の管理を行い、運転手を確保するなどの自主的な取り組みが必要となります。地域の状況に応じた運行ルートや運行時刻を地域独自で設定できるなど、交通利便性だけではなく地域コミュニティー強化につながるなどのメリットも報告されています。

本市においても、人口減少や高齢化社会を迎え、地域の状況が大きく変わっていくことが予想されるこれから、地域住民の足を確保するための公共交通のあり方について、坂出市地域公共交通活性化協議会で検討を深めるよう提案しています。

(建設経済部長)



イオン坂出店内に無人図書館等を設置してみては

Q イオン坂出店では2階の一階に学生用の勉強スペースを設けてくれているが、参考書等を中心とした無人図書館を設置するなど、学生が気軽に利用できるような施策を考えてみては。

A ご提案の活用方法については、若者が日常的に集うことにより、中央公民館の利用促進のみならず、周辺のにぎわい創出にも一定の効果が期待できるものと想います。一方で、実施に向けては、施設所有者である民間事業者の意向の確認や学生のニーズの把握、費用対効果の検討など、さまざまな課題があることから、貴重な意見として、今後の参考とします。(総務部長)